

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	工業簿記2（Industrial Bookkeeping 2） 392105-14600					担当教員	中村大輔 （ナカムラ ダイスケ）		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL / 資格対応科目								

① 授業のねらい・概要									
1年次配当の簿記入門では商品売買業における基本的な簿記を学んだ。工業簿記では製造業における簿記を学ぶ。本講義は日商簿記検定2級における工業簿記の範囲の中でも総合原価計算（工程別、組別、等級別）、標準原価計算、直接原価計算、損益分岐点分析を学ぶ。日商簿記2級対応科目である。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
授業時間が限られているため、予習・復習が特に重要となる。検定試験合格のためにも、予習・復習を欠かさないこと。授業前に配布するレジュメファイルを各自印刷し、予習すること。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
工業簿記1、商業簿記1・2と共に履修することが必要である。これらの科目とともに学ぶ事で製造業を含めた簿記を体系的に理解できるようになる。工業簿記1を履修していないと本科目は理解できない。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 工程別、組別、等級別の総合原価計算を理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。									
(ii) 標準原価計算を理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。									
(iii) 直接原価計算、損益分岐点分析を理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。									
⑥ テキスト（教科書）									
滝澤ななみ(2018)『簿記の教科書 日商2級 工業簿記（第5版）』TAC出版 滝澤ななみ(2019)『簿記の問題集 日商2級 工業簿記（第8版）』TAC出版 （いずれも改定版が出版された場合は最新版を使用する）									
⑦ 参考図書・指定図書									
各年度に対応した過去問題集、予想問題集等。必要に応じて紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%	20%						100%
(i) 工程別、組別、等級別の総合原価計算を理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。	26.6%	6.6%						33.3%
(ii) 標準原価計算を理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。	26.6%	6.6%						33.3%
(iii) 直接原価計算、損益分岐点分析を理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。	26.6%	6.6%						33.3%
フィードバックの方法	授業中の小テストは採点して返却・解説する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
早い段階から検定レベルの問題に触れるようにして、早期の合格を目指す授業にしたい。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	ガイダンス、工程別総合原価計算	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んでレジュメを完成させる。前期の単純総合原価計算を復習しておく。仕損・減損についても復習しておく。	60分
2	組別総合原価計算	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んでレジュメを完成させる。組間接費の配賦について理解しておく。	60分
3	等級別総合原価計算	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んでレジュメを完成させる。等価係数、積数について理解しておく。	60分
4	財務諸表・本社工場会計	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んでレジュメを完成させる。特に原価差異の表示について製造原価報告書と損益計算書における違いを理解しておく。	60分

5	標準原価計算とは	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んで標準原価計算の全体像を理解する。パーシャル・プランとシングル・プランの違いについて理解しておく。	60分
6	標準原価計算（差異分析）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んでレジュメを完成させる。製造間接費差異の分析に使う図を書けるように練習しておく。	60分
7	直接原価計算	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んでレジュメを完成させる。特に固定費調整について暗記ではなく本質が理解できるようにしておくこと。	60分
8	直接原価計算（CVP分析）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	教科書を読んでレジュメを完成させる。教科書のCVP図表ではなくレジュメにあるCVP図表が書けるように練習しておく。	60分
9	問題演習（個別原価計算）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	個別原価計算自体は前期の範囲であるが、費目別計算は後期の範囲の前提となるため、よく復習しておくこと。	60分
10	問題演習（単純総合原価計算）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	前期の範囲であるが、単純総合原価計算が理解できていないとその他の総合原価計算が理解できない。よく復習しておくこと。	60分
11	問題演習（工程別総合原価計算）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	仕損・減損や原価配分（先入先出法、平均法）との組合せ、複数の原料を使う場合などの問題に対応できるように基礎から復習しておくこと。	60分
12	問題演習（組別総合原価計算）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	組間接費の配賦方法を中心に復習しておくこと。	60分
13	問題演習（等級別総合原価計算）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	完成品原価を積数の比によって按分する方法を復習しておくこと。	60分
14	問題演習（直接原価計算・CVP分析）	教科書、問題集、レジュメ、電卓	CVPの関係を本質から理解し、どんな問われ方でも解けるように復習しておくこと。	60分
15	まとめ	教科書、問題集、レジュメ、電卓	工業簿記1～2の範囲、中でも勘定連絡を自分で書けるように復習しておくこと。勘定連絡図が工業簿記における全ての基本である。	60分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。適宜小テストや課題等を行い、その解説を行うことで知識の定着を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

--

実務経験と授業科目との関連性

--